

# 「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当: 斎藤登美夫



◇◆◇ No.0616 ◇◆◇

20/12/30

## 【 干支や経験則を参考に、来年の相場を考える 】

今年最後の当レターでは、「来年の相場見通し」などについてレポートしてみたい。ただ、テクニカルや政治・経済情勢など材料に基づいたものは来年改めてレポートするとして、今回は干支や年号などを参考に、以下で論じてみたいと思う。

### << 干支である「丑(ウシ)」年相場は如何に!? >>

干支、いわゆる十二支というものには、それぞれラッキーカラーが存在している。そんな干支とラッキーカラーからすると、来年の「丑(ウシ)」年のラッキーカラーは、そのボディカラーでもある白と灰色、あるいは銀色などとされているという。また金色や黄色、ラベンダーといった色も良いそうだ。なお、前者である白や灰色については、金属元素を示すといった指摘もあり、また「土」に関するものが「吉」とされている。これを金融市場に当てはめて考えれば、ゴールドやシルバーなどの貴金属、あるいは「土」系からの類推で原油や天然ガスといったものが復権を果たすなど、2021 年は取引対象として有望であるのかもしれない。

一方、株式市場の参加者からよく取り沙汰される干支別の相場格言はというと、2021 年の「丑」は「つまづき」になる。ご存じの方も多そうだが、もっともパフォーマンスの良いのが「辰(タツ)」で、それに続くものが格言上では「繁盛」といわれる今年の干支「子(ネ)」だったが、それから一転。来年は 12 ある干支のなかで 11 番目に悪いことが経験則から示されている(最下位は「午(ウマ)」)。さらにいえば、「丑年」相場は年の前半こそ比較的好調だが、途中で息切れ。年後半にかけて大きく値を崩す――ことが多いのだという。おりしも、最近の日本株相場も好調で、一部証券筋からもかなり強気の見通しが聞かれているものの、経験則的にはむしろ一連の過程における高値掴みにこそ注意した方が良い気もしている。

### << 末尾に「1」のつく年の動静は!?>>

来年、2021 年のように、西暦で末尾に「1」がつかう年の出来事を過去に遡って調べてみたところ、大きく 2 つの特徴がうかがえる。

ひとつは、「日本の政変」が起こりやすいということで、それもある種の転換点、大きな変化をもたらすことが多いようだ。たとえば、2001 年は森喜朗首相が退陣し、次の首相に就任したのはあの小泉純一郎氏。また、前回 2011 年は菅直人首相を中心とした内閣が倒れ、民主党政権最後となる野田佳彦氏が首相に就任している。後者との絡みでいえば、偶然にも読み方こそ違えども、現在も「菅首相」が政権運営を担当していることは、一抹気掛かりか。ヒョッとすると、2 回連続で「菅首相退陣」と、それにとまなう「日本の政変」が起こり得る気もしないではない。

また、もうひとつの事象は、のちに振り返った際、「歴史に残るような重大事象を記録することが非常に多い」ということになる。

こちらもありやすく、平成以降という比較的最近のものだけを幾つかピックアップしても、1991 年は「湾岸戦争勃発」と「ソ連消滅」。続く 2001 年は「米同時多発テロ事件発生」、「米国で炭そ菌送付事件相次ぐ」、2011 年は「東日本大震災」、「ビンラディン容疑者殺害される」――などとなる。改めて指摘するまでもなく、今年起こった一連の「コロナショック」は間違いなく歴史に名を残すものだが、経験則からすると、来年についてもなんらかの大事件に要注意と言えそうだ。

最後、為替市場に目を転じると、前回の末尾「1」年、つまり 2011 年にドル/円相場は 1995 年 4 月につけた戦後最安値を更新、一時 75.57 円を示現していた。この記録はいまだに破られていない。

日経新聞も先日、「市場では 2021 年も円高が進むとの見方がある」と報じるなど、筆者の予想とは異なる見解ながら、ヒョッとすると来年予想以上のドル安・円高進行をたどる可能性を否定できないようにも思っている。(了)

――末筆になりましたが、当稿が今年最後のレターとなります。今年も御愛読ありがとうございました。来

